新春

天狗連名人寄席

◆二〇一五年一月一八日(日)開場＝二時 開演＝二四時
◆穂の国とよはし芸術劇場プラット・アートスペース
◆前売＝一、五〇〇円 ◆当日＝一、八〇〇円 ◆出演者は変更の場合あり

PLAT
穂の国とよはし芸術劇場

長短

◆会社員 小林利之

向山のアビタにて上質な着物を販売する一方、天狗連メンバーに【丸洗いOK】の格安着物を横流し…いや、提供している彼。この公演に向けて、着物を新調するメンバーが続出するのではないかとソロバンを弾いていたが、見事に肩透かしをくらった。そんな彼が演じるのは、正反対の性格を持つ二人のコントラストが秀逸な『長短』。着物大量販売の当てが外れた鬱憤を高座にぶつけます。

離婚式

◆調理師・落語作家 横井正幸

自ら高座に上がる一方、創作落語を執筆し、春風亭小朝師や春風亭昇太師、林家木久蔵師など多くのプロに作品を提供している事は、知らない人以外は皆知っている。文芸作品やオペラを落語化するなどの依頼もこなし、創作活動に余念がないが、未だ独身。ネタの創作は出来ても、家庭の創作は苦手なようだ。そんな結婚もしていない彼が自作の『離婚式』を演るのは何とも皮肉な話である。

池田の猪買

◆舞台屋・芸人 今村敬

【趣味は結婚、特技は離婚】と謳われた彼も、最近は良きパパとしてすっかり落ち着いてしまい、ある意味面白くなくなったと言われている。『さよか…ほんなら芸の飛躍のためにも、そろそろかいな?』…何がそろそろなのかはともかく、笑顔でそう語る彼の目は笑っていなかった。『猪買い』は猪鍋を扱ったネタだが、実生活でも猪鍋で、すっかり冷えきった家庭を温めてほしいものだ。

時そば

◆医者 柘植勇人

天狗連の健康管理を一手に任される、現役の耳鼻科医。落語のかたわら治療も行い、耳垢がたまり過ぎたとか、プールで泳いだら耳に水が入ったなどの緊急事態には迅速に対応してくれるが、耳の事以外はあまり判らないんじゃないかという、怪しげな噂も一部にある。お馴染みの『時そば』を演じるが、お得意の医療ネタを散りばめ、随所に見られる南朝流のアレンジを堪能していただきたい。

一番煎じ

◆床屋 小林秀行

天狗連を束ねる重鎮であり、金庫番も務める。普段の柔和な笑顔と、メンバーを叱る時の鬼の形相という、二面性を使い分けて一同を仕切る事から、天狗連の【仕切るハイド】と呼ばれている。冬の夜回りが登場する『二番煎じ』でご機嫌を伺うが、彼自身は旅行三昧で、毎週のように、国内国外を問わず飛び回っている。当人は『これも高座のネタ収集のため』と言うが、何の説得力も持たない。

中入り

市民病院物語

◆図案屋 共田慎性

市内でデザイン事務所を営む彼。非常に多忙な毎日で、寄席見物、観劇、歌舞伎観賞、サッカー観戦と、全く遊ぶ暇もない。そんな彼は【三河弁落語】を駆使する、東三河密着型の芸風。今回も、豊橋市民病院の跡地でホテルを始めたらという大胆な着想の噺を演じる。今回の公演で、【和食】、【和紙】に次いで唯一無二の【三河弁落語】を、ユネスコの無形文化遺産に登録しようと目論んでいる。

太神楽

◆教師 服部昭一

傘回し、皿回し、曲独楽など、太神楽に人生を捧げて三十年余り経つ。最近は弟子の育成にも熱心で、若い世代に日本の伝統芸を伝えようとしているんですか?(聞くな〜!)若手の台頭も著しいが、まだまだ、太神楽の第一人者としての地位を譲るわけにはいかないと、日夜稽古にハゲみ、割れる皿の数も激増。太神楽における、世代の【交代】は進まないが、頭髪の【後退】は確実に進んでいる。

芝浜

◆団体役員 近藤洋二

天狗連の顔であり、押しも押されもせぬ天狗連のトップスター。野暮を嫌い、粋にこだわるその流麗な芸風は、もはや円熟の域に達しつつある。そんな彼が近年血道をあげているのが、宝塚の舞台。目をハートマークにして通う姿は、まるで女子高生のよう。タカラジェンヌたちの放つ華と艶をタップリ吸収して臨む舞台は、古典の名作であり、十八番の『芝浜』。感涙必至の高座を、ご堪能ください。

新春 天狗連名人寄席

2015年1月18日(日)◆開場13:00◆開演14:00 | 穂の国とよはし芸術劇場プラット・アートスペース | 木戸札=前売1,500円 当日1,800円

■販売・お問合せ=小林理容館 ☎0532-53-2710・プラット チケットセンター窓口 ■主催=豊橋落語天狗連 http://www.geocities.jp/tengurenjp/index.html

PLAT 穂の国とよはし芸術劇場